

キャラクター名  
アウル

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ		ワークス	ハッカー	カヴァー	UGNイリーガル
	オルクス					
オプション			年齢	13	性別	女
覚醒	渴望	衝動	自傷	初期侵食率	33	%
出自	犯罪者の子	経験	犯罪	邂逅	保護者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	0	0			2	行動値	7
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	7
精神	2	1	0			3	戦闘移動	12
社会	2	0	0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC			交渉		1
回避			知覚			意志			調達		1
運転:			芸術:			知識:コンピュータ	5		情報:ウェブ		5
運転:			芸術:			知識:			情報:裏社会		5
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
Nerve hack		0				C値-1、攻撃力+6、達成値+10を3体に
100↓(1+2+3)		0				侵蝕率+9、シナリオ2回まで
Nerve crack		0				C値-1、攻撃力+8、達成値+12を3体に
100↑(1+2+3)		0				侵蝕率+9、シナリオ3回まで

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
カジュアル	
携帯電話	
思い出の一品	
モバイルPC	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
父親	P 尊敬	N 悔悟		
警察	P 執着	N 憤懣		
霧谷雄吾	P 慕情	N 不安		
ジェントルマン	P 同情	N 脅威		
アルン	P 尽力	N 不快感		
魅月	P 誠意	N 憤懣		
エリザ	P 連帯感	N 嫌気		

最大財産P: 6    残り財産P: 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
解放の雷	3	4	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 対象のC値-1、攻撃力+[LV*2]								
要の陣形	2	3	メジャー	-	3体	シンドローム		
効果: 対象を3体に、シナリオLV回								
導きの華	5	2	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 対象の達成値+[LV*2]、購入判定不可								
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動		
効果: 出目1つを10Iに、シナリオLV回								
力の法則	3	4	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果: 対象のダメージ+[LV+1]D、1R1回								
セキュリティカット	★	1	メジャー	至近	効果	自動		
効果: 電子ロックの解除とか								
タッピング&オンエア	★	1	メジャー	視界	効果	自動		
効果: 電波の傍受、送受信とか								
電子使い	★	-	メジャー	至近	自身	自動		
効果: 電磁記録媒体の情報操作								
地獄耳	★	-	メジャー	至近	自身	自動		
効果: 領域内の情報を全て手に入れる								
猫の道	★	-	メジャー	至近	自身	自動		
効果: どんな場所でも移動できる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

平凡な毎日。平凡な日常。  
ただちょっと、髪や目の色が違ったり、身体が弱かったりしただけ。  
一般人と何ら変わりはない、普遍的な学生生活。その筈だった。  
大きくなって、進学して、恋をして、家庭を持って……。描いた絵は全てが脆く崩れ去る。  
ある日捺されたのは「犯罪者の子」の烙印。そんな筈はない。ババは無実だ。  
けれども、一介の子の発言を気に留める大人なんていなかった。  
糞だ。腐ってる。ふざけるな。壊してやる、こんな社会。

あらゆるものが情報で出来ている現代で、その情報を混濁させるのは至極簡単だった。  
ババも帰って来る筈だった。筈だった。事態はひたすら悪化していくばかり。  
気付けば、私は一人ぼっちだった。失った物は、二度と取り返す事は出来ないのだろうか。  
そんな時に、UGNという組織の人がやってきた。私の力を貸してほしいという。  
どうやら私は、オーヴァードというものらしかった。  
……こんな私でも良いのなら、喜んでお受けします。

そうして、私はアウルと名乗るようになった。  
故にそれ以前の名は捨て、それ以前の過去を捨てた。  
だが……想いの欠片として、少しは残っているかもしれない。

イリーガルとしての仕事が無い時は、一人だけの家でネトゲをする毎日。  
学校に行かなくても勉強は出来るし、コミュニケーション能力を鍛えるには、あらゆる人と接することが出来るこっちの方が圧倒的に便利だ。  
……かつての友人たちと、顔を合わせなくても良いというのが一番の理由かもしれない。